

## 看護師の感じている「忙しさ」を、“看護業務量スコア”として可視化。 見たデータから業務改善に取り組み「働きやすさ」を向上。

昨今の医療現場は、高齢化の進展や新型コロナウイルスの流行により業務量が年々増加。一方、医療従事者のリソースには限りがあり、働き方改革の推進が求められている。

岐阜市民病院様では、看護師の「客観的な忙しさ」を見える化することに着眼。「HOPE LifeMark-看護配置マネジメントサービス」の導入により、既存の電子カルテや看護勤務割システムに蓄積された情報をAIモデルで解析し、適正な看護配置を実現している。

### お客様について

「心にひびく医療の実践」を理念に、地域医療の中心として、経験豊富な医師や看護師による高度な医療を提供。また、地域の健康増進と予防医療にも注力し、健診、予防接種、健康教室などを通じて地域住民の健康保護にも取り組む。



岐阜市民病院  
総合企画室  
副主幹  
小川 敦史 氏



岐阜市民病院  
看護部  
副看護部長兼総合企画室  
医療情報室管理官  
高階 利昭 氏

### 毎日のデータ抽出作業が0に

設立：1941年  
病院長：山田 誠 氏  
病床数：565床（一般515床、精神50床）  
職員数：922名  
所在地：岐阜県岐阜市鹿島町7-1



### 課題

- 看護師の適正な人数配置を行っても、人手不足や忙しさを訴える声が無くならない
- 病棟ごとの業務量を可視化するのに非常に手間がかかる、タイムリーな可視化ができない



### ソリューション

HOPE LifeMark-看護配置マネジメントサービス



### 導入効果

- 「看護業務量一覧」により、これまで手作業で可視化を行っていた病棟ごとの入退院数や検査への送り出し件数などを瞬時に把握
- 配置調整にかかっていた時間が一気に短縮されるだけでなく、各病棟の状況をリアルタイムに確認でき、業務効率化を実現
- システムが自動で情報を抽出しAIモデルで解析して病棟の忙しさをスコア化、人の手を加えることなく可視化を実現
- システムでの分析結果を踏まえて運用改善を実施、看護師の業務負荷軽減を実現

“AIを活用したシステムがタイムリーに病棟の状況を可視化。  
現場の肌感覚に合わせた設定の見直しを行い、更なる業務改善を実現”

高階 利昭 氏

## 導入の背景

公立病院として地域に必要な幅広い診療科を提供し、地域医療を支える急性期病院としての使命を果たす岐阜市民病院。高齢化の進行や新型感染症の流行により看護師の業務量が年々増加する中、看護師の業務負担軽減について検討を開始。「病棟師長からは忙しい、スタッフが足りない、応援が欲しいという声上がる一方、看護部長室からは適正な人数配置はできているはずだ、という声が上がっていました」（高階氏）。

「病棟ごとの主な診療科の配置見直しを行い、業務平準化を図ろうと取り組みました。取り組むにあたって病棟ごとの入退院の数や重症患者管理部門への転出転入の状況、検査への送り出しや手術の送り迎えの件数など、院内の様々なデータを抽出・加工して可視化していましたが、作業に非常に時間がかかり、タイムリーに提示することができないという課題を抱えていました」（小川氏）。

## 採用のポイント

岐阜市民病院には課題を解決するためのコンセプトがあったといいます。

「業務量を誰にでもわかりやすく可視化できること、可視化したデータを業務改善につなげられること、可視化するために新たな作業が発生しないこと、これが私たちの希望するソリューションの形でした。そんな中で富士通の方からLifeMark-看護配置マネジメントサービスの説明を受け、これはなかなかいけるんじゃないかと感じました」（高階氏）。

「看護配置マネジメントサービスには看護業務量一覧という機能があるのですが、まさにこれが今まで手作業で集計していた情報を一覧ですぐに見られるものでした。これらを活用すれば作業にかかっていた時間が一気に短縮され、リアルタイムに情報が確認でき業務効率化が図れるようになりました」（小川氏）。

業務の可視化や効率化を狙って採用いただいた看護配置マネジメントサービス。しかし、導入当初はAIが導き出す結果と現場の肌感覚とのズレに直面したといいます。

「寝返り・移乗・口腔・食事・衣服・指示・危険といった看護必要度B項目の内容は、日常的な患者さんの身の回りのケアに関する項目なので現場の看護師は忙しいと感じますが、高いスコアで評価されていませんでした。一方でシリンジポンプは高いスコアで評価されていたり、CTやMRIの検査出しについても業務負荷は同じ感覚なのにスコアで見ると差が付いていたり、看護師が現場サイドで感じる肌感覚とのズレがありました」（高階氏）。そこでこれらのスコアがどのように算出されるかを富士通担当者にヒアリングし、「実際に様々な数字を見せてもらい、看護師の意見も踏まえながらスコアの重み付けを調整しました。修正したインプット情報を基に再度算出すると、看護師の納得感もあるスコアとなりました。富士通さんに迅速に対応いただけたことで、現場にストレスを与えることなくシステム導入を進めることができました。今後も随時モニターしながら、よりスコア精度を高めていきたいと考えています」（小川氏）。

## 効果と今後の展望

AIで算出した忙しさの重み付けをそのまま使うだけでなく、現場の肌感覚に合わせて再設定し、データが蓄積されるほど精度も上がる本システムの導入をきっかけに、業務改善にも取り組んだという。

「当院ではオーダ発行締切時間を16時に設定しているのですが、オーダ発行時間分析機能で可視化したところ、全体の1/3は締切時間までに発行され、残りの2/3が締切時間後に出ていることがわかりました。同様に、指示受け分析機能で時間帯別・勤務帯別の指示受け状況を可視化したところ、看護師が勤務終わりの遅い時間に指示受けをしており、残業時間につながっていることがわかりました。このことから、医師にはなるべく早くオーダを発行すること、看護師には早めに指示受けするように呼び掛けることで、連携しながら業務改善につなげました」（高階氏）。

富士通からのアドバイスで、オーダ件数が他病院と比較して多いことも判明。件数の多さが看護師負担に直結するため、電子カルテシステム更新のタイミングに合わせて病院全体でドクターをはじめ様々な部門が協力し、指示簿の見直しや再整理を実施。

「一番便利に感じた点は、データの抽出にまったく人手を加える必要がないこと。朝、出勤した時には、前日のデータがすべて抽出されていて、可視化できる状況になっています。これは、私たちが希望するソリューションの大前提にしていたので、非常に満足しています」（高階氏）。

システムの使用権限を、看護部長、副看護部長、病棟の各師長、総合企画室、病院長、副院長、各診療科の局長に付け運用したことも奏功した。「今後は、看護師業務で特に大きな負荷のかかる夜勤や多くの看護師を配置する外来についても業務量を分析したいと考えています。また、看護師の配置を考える時に各病棟を平均して同じ条件で見られるようになるといいですね」（小川氏）。

## HOPE LifeMark-看護配置マネジメントサービス

- 電子カルテや看護勤務割システムに蓄積されたデータをAIが自動で分析
- 看護師の業務量（忙しさ）を“看護業務量スコア”として可視化
- 最適な看護配置や働き方改革の実現に向けた運用改善をご支援するSaaSサービス

### インプット情報



移動情報  
患者状態  
等



勤務者数  
経験年数  
ラダーレベル  
超過勤務時間  
病棟総勤務時間  
等



当社独自の  
AIモデルで  
分析

### HOPE LifeMark-看護配置マネジメントサービス

#### 看護業務量 一覧

- 看護業務量スコア
- スコア算出根拠となったインプット情報

#### 看護配置分析 レポート

- 看護業務量スコアに影響を与える要因
- 看護師に関する情報

#### 業務可視化 コンテンツ

- 分析内容をコンテンツ表示